

第 22 回 農業高等学校生意見文全国コンクール審査講評

審査委員長 小松崎 将一

農業高等学校生意見文コンクールは、農業や農業関連産業の後継者・従事者として、また、農業指導者や農業に対するよき理解者として、これからの日本農業を持続、発展させる担い手となる高校生が農業および農業を取り巻く様々な環境に対する思いを意見文にまとめることにより、農業に対する意識を高め、高等学校での生活や学習を一層充実させることを期待するためのものです。日本農業教育学会主催の取り組みとしてさらに充実させ、大きく飛躍させたいと考えています。

今年度で 22 回目を迎えました本コンクールには、全国の日本学校農業クラブ（FFJ）に加盟している農業高校および農業関連学科に所属する FFJ 会員の高校生から多数の応募がありました。応募された意見文は、それぞれの農業体験や実習、実践活動、研究開発などを通して、農や食への興味・関心、地域貢献や自分たちの暮らしなどへの取り組み、将来の夢などについて、高校生らしく自分の気持ちを素直に表現したすばらしい作品でした。また、自らが積極的に考え、行動し、その成果を自分なりに工夫して取りまとめた意見文も多くみられました。これらの意見文について、課題と内容の整合性、文章の論理性、説得力、さらには農業高校生としての自覚と内容の適性、意見の妥当性や建設性、将来への熱意など、幅広い観点から厳正な審査を行なった結果、最優秀賞 1 作品、優秀賞 2 作品が決定いたしました。また、これらと同様に内容のすぐれた 1 作品に対しては審査員特別賞を設けました。

最優秀賞に選ばれた高橋ここはさんの『私の目指す草花生産』は、温暖化が進行する中での草花の安定生産に向けた管理方法を探求しつつ、コロナ禍による「草花離れ」に対する懸念を述べ、花のある暮らしの大切さを熱く語った意見文です。将来への展望とともに、自身の夢を明確に表現した点が高く評価されました。

また、優秀賞の緒方太地さんの『果樹は地域の宝物 ～探究学習で見つけた私の夢～』では、地域の農家が抱える課題を発見し、校外の方々と協力しながら商品開発を進める経験を通じて、自ら考え、行動し、地域との連携を深めていく姿が描かれています。実践的な学びの中で得た気づきや成長が明確に示されており、その点が高く評価されました。今西葵さんの『“特産松阪牛”を伝えたい！』では、松阪牛の歴史を踏まえた上で、日々の実習や給餌当番を通じ、産業動物としての牛の飼育には単に可愛がるだけでなく、継続的な世話や健康管理が欠かせないことを深く理解している点が印象的でした。特に、牛が人から与えられる餌や水、そして愛情を受けながら成長する過程を見守る中で、それを単なる教材や食材としてではなく、一つの命として捉え、その責任の重さを実感していることが伝わる内容でした。

審査員特別賞の伊藤星夏さんの『大好きな祖父母の農作業体験を通して農業の魅力を発信したい』では、幼少期から祖父母とともに農作業を経験したことをきっかけに農業への強い関心を抱き、農業高校での学びへとつなげている姿が描かれています。農業の魅力を伝えたいという思いが真っ直ぐに表現されており、読む人の心を打つ作品でした。

今回応募された意見文はいずれも高校生らしい視点が生かされた素晴らしい内容であり、審査は非常に僅差の議論となりました。本コンクールの原点である「自ら考え、行動し、取りまとめる」という姿勢を大切にしながら、今後も厳正に審査を行ってまいります。

最後に、本コンクールの開催にあたり、ご協力を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。